

番号	抽出された地域福祉課題	背景	福祉施策調整会議での意見
①	住民の自治会加入率低下による民生委員活動、地域支援活動の困難度の上昇	自治会未加入者と交流がないため実態が分からず、災害時の対応に不安がある	<ul style="list-style-type: none"> ・関係所属との情報共有や協議が必要 ・自治会加入率を出して、交流がない人がどのくらいいるかを知ること必要
②	特殊詐欺防止啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・依然として伊賀市でも特殊詐欺が多い ・サロンで啓発しているが手口が巧妙になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係所属で行っている啓発事業などを、サロン等で活用してもらうこともできるのではないか。
③	ごみ問題	<p>自治会未加入からつながるゴミ屋敷問題がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会に入らないとゴミ集積場を使えないのか？ ・ゴミ集積場を使いにくいいため直接リサイクルセンターへ持込む必要があるか ・ゴミ屋敷にならないように取組む主体機関が不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ屋敷問題は、福祉部局だけでは対応が難しく、庁内の関係所属との協議が必要
④	児童問題（従来は児童関係の活動が高齢関係に比べると少なかったため、対応ノウハウが不足している。行政や自治協、警察等との情報共有や連携強化が必要。）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と民生委員の関係がうまくいかない ・外国人児童が増加しており、複雑な課題が増え、問題が根深く根幹までたどり着けない。 ・行政の持つ情報が入手できず民生委員が持つ情報が少ないため、取組みづらい ・こども会の解散に伴う民生委員の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の制度の周知を行う ・学校との関係について、教育委員会にも現状を伝える必要がある
⑤	認知症施策の普及（地域での関係者を増やす）	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が認知症高齢者の支援にあたる事例が立て続けにあった ・地域の課題はすべて民生委員という認識の方がいるが、特に認知症の方の見守りは民生委員だけで担えるものではない ・民生委員として重要な課題であると感じている 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係所属で対応できるものもある

番号	抽出された地域福祉課題	背景	福祉施策調整会議での意見
⑥	熱中症予防の啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内に熱中症で亡くなった人がいる ・在宅高齢者が冷房を使うと若い世代から渋られる ・サロンがクーリングシェルターとなり電気代が負担 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者だけでなく、全世代に向けた啓発が必要となる。
⑦	免許証返納ができない高齢者対応（安心して免許返納ができるまちづくり）	<ul style="list-style-type: none"> ・90歳になっても免許返納をしない高齢者が増加 ・お買い物バスの使い勝手が悪く、返納できない ・通院手段として免許を返納できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通問題として、健康福祉部だけでなく交通戦略課も含めて引き続き協議を行う
⑧	地域（福祉）活動について、担い手不足による限界感がある。ただし、地域に限らない要員による話し合いで打破できる状況、とも考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で見守りをすすめるにしても、民生委員が把握できていない高齢者がいる（ショートステイ退所時の連携不足等を含む） ・地域のつながりが希薄になっている実感 ・民生委員担い手不足 ・交通問題を自分ごととして考えない風潮。デマンド交通（島ヶ原ぐるり号）の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足は、民生委員だけでなく自治協や自治会でも起こっている。地域人材、介護人材なども不足している状況であり、今後取り組みが必要。 ・交通問題は、⑦と同様。 ・地域のつながりが希薄になっているのは、コロナ禍で加速した感じがあり、つなぎ直しが必要
⑨	地域における有償ボランティア等、インフォーマルサービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・玉瀧と丸柱で活動している「おたすけ玉ちゃん（有償ボランティア）」、馬田地域の「わにまる」などの地域における共助の推進 ・屋外での草引きにより体調を崩す高齢者が多い ・住民主体による移動送迎の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通問題は、⑦と同様。住民主体による移動送迎を実施することになった場合の市役所窓口はどこになるのか。 ・有償ボランティアをサポートする主管課による支援
⑩	阿山地域における防災への取り組みについて、事業所はBCP未策定減算対策、地域は浸水想定区域等の地理的特性や、自主防災組織が実際には機能していない現状への対応、それぞれ別課題を発端にしているが、タイミング的に、取り組みの成果が双方個別避難計画推進に結びついている。この効果について、他の地域にも発信が望まれる。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別避難計画をケアマネ連絡会で取り上げたところ、認識誤りを把握でき、正しい情報発信をした ・河合地区ネットワーク会議において子ども向け防災講座など自発的な取り組みがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別避難計画の事業進捗を注視する。

番号	抽出された地域福祉課題	背景	福祉施策調整会議での意見
⑪	地域に即した空き家対策を、地域の活性化に転換させる取組み（一歩踏み込んだ支援）。	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家に空き巣が入る事例が地域で発生し、警戒している ・民生委員で土地家屋家財を一括で処分できる業者につなぎ、家の処分を手伝っている（空き家をなくすことで地域の安全を向上する目的） ・空き家を買って取ってもらえるように相談を受けるなど、（特定の）民生委員が意識している 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家問題について、関係所属との協議が必要
⑫	いざというときに利用できる福祉サービス不足（人材・事業所不足）	<ul style="list-style-type: none"> ・おおやまだ鶴寿園とさるびの温泉のデイサービスでは、リハビリ対応が不可。遠方だと送迎対応ができず、行きたいデイサービスを利用できない方が多い ・配食サービス事業者の選択肢を増やしたい。まごころ弁当は味が合わない、量が少ない、という声も相当数あり、糖尿病食やカロリー考慮、きざみ食等に対応できる事業者を増やしたい ・坂下、馬野地区担当ヘルパーが不足しており、当該地域まで来てくれない ・ヘルパー養成について、伊賀市で短期間の初任者研修受講可能なところが少なく、名張へ受講に通っている人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護人材不足の問題であり、今後取り組みが必要となっている
⑬	特に介護タクシーをはじめとする移動支援不足	<ul style="list-style-type: none"> ・車移動が生活必需手段となっているこの地域では、免許返納は現実的に難しい ・送迎事業者としては、近距離移動は料金体系的に利益を生み難く、事業所運営にも影響するため、対応が難しいという現状がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通問題で、⑦と同様。
⑭	増加する高齢者関係を中心とした困りごとを察知した後で、実施すべき具体的な解決策や手段を習得すること。 ①行政サービスの周知 ②介護予防活動の向上（健康寿命の延長）	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員が対応する個別ケースが多く、地域ケア会議内での相互の助言が有効となっている事案がある。 ・出前講座や座談会のニーズが高い ・高齢者福祉に関して、健康寿命の維持が肝要だが、青山地区は特定検診の受診率が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の情報は、ホームページに掲載されているので、それを周知する必要がある。 ・特定検診の受診率に地域差がある理由など、関係課との協議が必要